田舎の姪と中出し夏休み

～二泊三日の帰省中、
家で野外でヤリまくり！
姪はエッチに興味津々なお年頃！～

成人向けCG集
基本CG13枚　本編211枚

STUDIO 山口マン PRODUCTS

夏川 涼花（なつかわ すずか）
156ｃｍ
84/55/86（Eカップ）
都心から遠く離れた田舎の住んでいるJ●。
水泳部に所属している。
昔、よく遊んでくれた叔父のことが大好き。
何年も会っていなかったが、
今でも叔父を慕っている。
最近は経験済みの友達から聞いた
性体験の話でエッチなことに興味津々♡
自分もエッチしてみたいと思うように♡
叔父とエッチしてからは、生でハメる快感の虜に♡

八月の中旬。

数時間電車とバスを何度も乗り継いで、
都心から遠く離れた田舎へと来ていた。

ミーンミンミンミンミンミーン

久し振りだな
実家に帰ってきたのは…

大学に入学してから
一度も帰ってなかったからな

ミーンミンミンミンミンミーン

ここは俺の故郷。
大学に進学するにあたって家を出てから
およそ六年ぶりの帰省となる。

電車とバスを何度も乗り継いで、
半日近く掛けないと帰ってこれない
場所にある田舎なので
これまで一度も帰省していなかった。

社会人になってからは
仕事で忙しくなって
ますます帰省する気は起きなかった。

だが、今年の夏は両親から
たまには帰ってくるよう連日連絡があり、
会社の夏休みを利用して帰省することに。

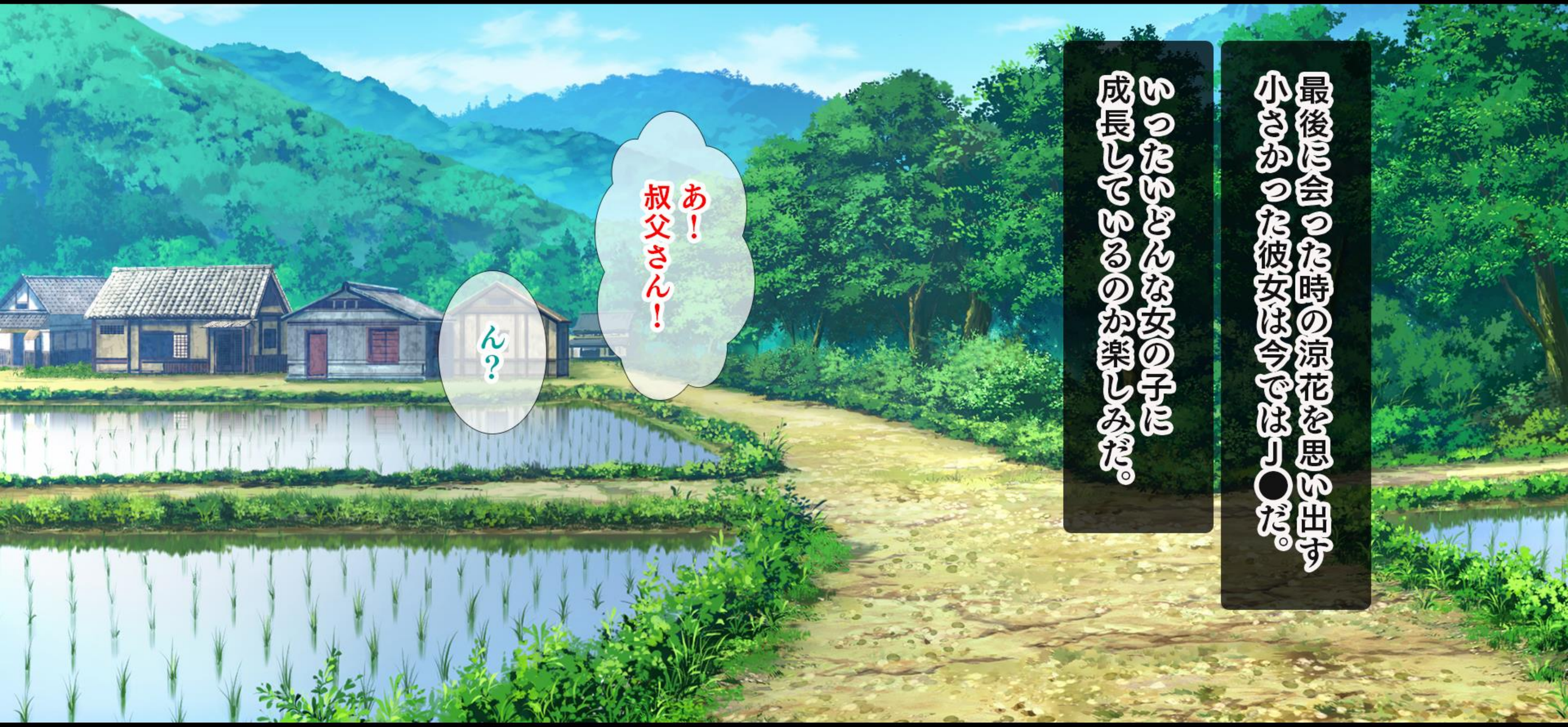
それに涼花(すずか)も
会いたがってるって
言われたしな…

涼花は年の離れた姉の娘
俺にとって姪にあたる女の子だ。

姉は俺が小学生の時に結婚して、
俺が高校生の時に離婚し、
涼花を連れて実家に戻ってきた。

高校卒業までの短い間だったが、
涼花は俺を兄のように慕(した)ってくれて
傍から見れば仲の良い兄妹だった。

高校生の時に
叔父さんと呼ばれたのは
ちょっと衝撃だったけどな…


最後に会った時の涼花を思い出す
小さかった彼女は今ではJ●だ。
いったいどんな女の子に
成長しているのか楽しみだ。
あ！
叔父さん！
ん？

もしかして涼花？
あはっ
そうだよ！
涼花だよ！
航太郎叔父さん
久し振り！
お、おいっ！

涼花
昔と全然違うな
すっかり女らしくなったな…
おっぱいとか…
あはは…
久し振りだな涼花
親父たちはいるか？
むにゅう
チュル！

うん！
今、家にいるよ！
お母さんは出張で
叔父さんが帰省している間は
家にいないけど…
お母さん叔父さんに
会いたがってたんだけどね
そうか…
姉さんはいないのか…

年の離れた姉は弟の自分をとても可愛がってくれていたが、その可愛がりは少し度を越していた。

正直鬱陶しいと思うこともあったので会えないことを残念と思う一方で少し安堵している自分がいた。

叔父さん中に入ろうよ

ここだと暑いしさ

ああ、そうだな

ぎゅっ

その後、両親と久し振りに再会する。
両親は農家をしていて
ちょうど休憩で家に戻ってきていた。

少し話してすぐに両親は農作業に戻り、
涼花と二人きりになる。

俺は久し振りに涼花との会話を楽しんだ。

涼花
だいぶ日焼けしてるな
あはっ
水泳部だからね
大会とかにはあまり出ない
お遊びの部活だけど
みんな泳ぐの好きなんだよね
今日もさっきまで
学校に行って泳いでたの
夏休み中はほとんど毎日に
学校に行って泳いでるんだよ

でも叔父さんがいる間は休むって言ってあるから
部活休んでいいのか？
うん！大丈夫！
それでね叔父さん学校でね…

涼花はそれから自分の近況について話してくれた。
両親や姉の意向で涼花はスマホを持たせてもらえていないが、手紙で時々やり取りをしていてある程度は知っていた。
涼花は手紙では伝えきれない小さな出来事までを楽しそうに話してくれる。
身体は成長してるけど中身は昔と変わらないなー
しみじみ…

あっ

そうだ！

叔父さんが帰ってきたら
訊きたいことがあったんだ

訊きたいこと？

俺に
答えられることならいいが…

うん、あのね…

エッチしたことある？
……はい？

エッチしたことあるかなって
私の周りって
経験済みの子が多くてね
みんな気持ち良いって
言ってるんだけど…
それって本当？
ねえ、エッチって
どんな感じなの？

い、いや、その…
そういったことは
姉さんに訊いてくれよ
いくら身内でも
答えにくいって
えー
お母さんには
むしろ訊きづらいよー
ね？
だから教えてよ叔父さん
あっ
もしかして
叔父さんは未経験とか…
いや…経験はあるけど…

やっぱり！
都会の人って経験豊富な
イメージあるから…
じゃあさ
私とエッチしてよ
はぁ!?
そんなのダメに
決まってるだろ！
お願いっ
どんな感じか知りたいの！

本当にダメだって…
俺は涼花の叔父であってそんなことしちゃ…
じゃあその気にさせる！
その気にさせるって…

ボイン
プニュ♥
!?

突然、胸を露出する涼花。
ほどよい大きさの
柔らかそうなおっぱいが揺れる。
さっき抱きつかれた時も
思ったけど…
おっぱいは
そこそこ大きいな
じぃぃ
ぽよん
柔らかそうで…
乳首は綺麗なピンク色で…
ゴクッ
涼花は姪だぞっ！

ふふっ
叔父さん…
ダメって言ってたくせに大きくなってるよ
あっ、これは…そのっ
ムラ
夏休みに入るまで仕事が忙しくて最近は抜いておらず、正直溜まっていた。
それもあって涼花のおっぱいに性欲が刺激されて勃起してしまう。

ニヤッ
大きくなったってことは
私とエッチしたいってことだよね？
だったらさ
シようよ
いや、だから…
俺と涼花は叔父と姪で…
そういうことは…

いいでしょ…
ほらっ！
ぐっ
うおっ!?

急接近してきた涼花は
その勢いのまま俺を押し倒した。
そして抵抗する間もなく
服を脱がされて勃起したチ●ポを
強制的に露出させられてしまう。
どさっ
ズル〃
ボロ〃…

じぃぃ
勃起したおち●ち●てこんな感じなんだ…
あはっ
昔一緒にお風呂に入った時はもっとへにゃってしてたよね？
ふふ…面白いね
お、おい涼花
やめ…っ！
ギーギー

あっ、ビクッてなった
ビクビクッ
ビクビクッ
ぎゅっ
友達から色々と教えてもらったんだけど…
こうやっておち●ち●を擦(こす)ると気持ち良いんだよね？

ほ、本当にダメだって…もうやめるんだっ
ジュボッ ジュボッ
ジュボッ
でも気持ち良いでしょ？
素直になろうよ叔父さん
ジュブ ジュブ ジュブ
す、涼花…っ！
ウッ

あっ
はぁはぁ
おち●ち●から
お汁がでてきた…
これ
我慢汁ってやつだよね？
ニチッ
ニチッ
トロ…
ぬちゃっ
ぬちゃっ
ぬちゃっ
気持ち良いと
出るって聞いたよ？
…気持ち良いんだ？
……

涼花の問いかけに何も答えないが、
出続ける我慢汁とガチガチなチ●ポで
感じているということはバレバレだろう。
くちゅ
くちゅ
ぬちゃっ
ぬちゃっ
ぬちゃっ
ジュブ
ジュブ
ジュブ
ジュブ
ジュブ
ジュブ
最近仕事が忙しくて
抜いてなかったし…
溜まってたからな
でないと姪の涼花に
興奮するわけが…くうっ！

おち●ち●
どんどん熱く…
大きくなってくよ…
くちゅ
くちゅ
くちゅ
くちゅ
はぁ、
我慢汁も
いっぱい出てくるし…
はぁ、
すぅ…はぁ…
我慢汁の匂いすごい
この匂いを嗅いでると
なんだか身体が熱くなる
ミシュッ
ミシュッ
ミシュッ

良い匂いってわけじゃないけど…
はぁ～
ぬちゃっ
ぬちゃっ
ぬちゃっ

す、涼花っ
そんなに激しくされたら…っ！
ぬちゃっ
ビクッ
ビクッ
はぁ、
おち●ち●ビクビク…！
これって射精しそうなの？
いいよ
いつでも出してっ
ふぅ
シコシコ
シコシコ
ぬちゃっ
ぬちゃっ
シコシコ
シコシコ

加速する涼花の手コキに、
後戻りできないほど
精液が昇ってきていた。
はぁっ
ぬちゃっ
ミチッ
ミチッ
はぁっ
ぬちゃっ
ぬちゃっ
ぬちゃ

ふぅ
ぬちゅっ
ぬちゅっ
ぬちゅっ
ぬちゅっ
はぁ、
ニゴッ
ニゴッ
ニゴッ
ニゴッ
出してっ
叔父さん！
はぁ、
はぁ、
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

ん、ん、ん、
ダメなのに、

はぁはぁ
これが精液…
ドロォ。
すごい匂い…んんっ
我慢汁よりもこっちの匂いの方が好きかも
はー…
はー…
それにこの匂い…なんだかお腹の奥がきゅうってなる
ドプッ
ドプッ

ズイッ
ふぅ…
はぁ…
叔父さん
今度は一緒に…
気持ち良くなろう
はぁはぁ
涼花…

ふぅ…
なんだか緊張する…
初めては痛いって聞くけどどうなんだろう？
あっ、でも怖くはないよ
むしろ早く挿れたいって身体がウズウズしてるの
ぷるんっ
すりすり
すりすり
くちゅ

愛液が溢れるマ●コに
俺のチ●ポを擦りつける涼花
射精したばかりだというのに俺のチ●ポは
未だにガチガチに勃起をしたままだ。
認めたくはないが姪である涼花を
俺の身体は一人の女として認識し、
セックスがしたいとチ●ポは震えていた。
俺はまだ残っている
理性を振り絞って涼花に声を掛ける。
す、涼花
これ以上は…
ダメ…
もう我慢できないっ
くちゅ
くちゅ
ビクビク

ズプッ!!
グチィッ

んあぁっ♡
入っちゃった…
確かに、ちょっと痛いね
でも満たされた感じがして気持ち良いの…んんっ
それじゃあ…動くね
ぐちゅ
ぐちゅ
ぬちゅ!!

くちゅ
はぁはぁ
おま●こ広げて
ゾリゾリって擦れる感覚っ
これ…ハマっちゃうかも…
ぬぷぷ
ぬぷぷ
ぬぷぷ
ぬぷぷ
くちゅ
くちゅ
じゅぷっ
じゅぷっ
じゅぷっ
じゅぷっ
ぬぷぷ
友達が気持ち良いって
言ってたのわかったよ

ぬちゃぁ
じゅぽっ
じゅぽっ
じゅぽっ
じゅぽっ
じゅぽっ
ぬちゃぁ
ぬちゃぁ
ぐちゅ
ぐちゅ
ずちゅ
ずちゅ
ぐちゅ
涼花のマ●コ
処女だったからキツいな…
それでこんなに腰を振られたら
すぐにイキそうだ…
でも、中出しするわけには…っ！

じゅぽっ
じゅぽっ
あっ…ここ気持ち良いかも
おま●このここ…
おち●ち●でゾリゾリって
擦るとゾクゾクってしてぇ
ぬちゃぁ
ぬちゃぁ
ぬちゃぁ
じゅぽ
じゅぽ
じゅぽ
ぱぱ
ぱぱ
ぱぷぷっ
ぱぷぷっ
ずちゅ
ずちゅ
うっ…締めつけて…っ！

気持ちの良いポイントを見つけた涼花は
その部分にチ●ポを擦りつけるようにして
腰を振った。
よほど気持ち良いのか擦るたびに
膣壁がキュッとチ●ポを強く締めつける。
ずちゅ
ずちゅ
ずちゅ
じゅぶっ
じゅぶっ
じゅぶっ
ぱぢゅ
ぱぢゅ
ぱぢゅ
ぐぢゅ
ぐぢゅ

どうしよう…
気持ち良すぎて止められないよ
おま●こに
叔父さんのおち●ち●
ずっと挿れておきたいっ
このままエッチ
ずっと続けたいっ
ぱぷぢゃ
ぱぷぢゃ
ぱぷぢゃ
ぱぷぢゃ
ぱぷぢゃ
ぱぷぢゃ
ぐぢゅ
ぐぢゅ
じゅぶっ
じゅぶっ
じゅぶっ
じゅぶっ
ずちゅ
ずちゅ
ずちゅ
ずちゅ

実家はできるだけクーラーを使わない
縁側から入ってくる風が心地良くて
何もしてなければ耐えられる。
だが、肌を重ねてセックスしていると
互いの身体の熱で汗が止まらない。
汗、愛液、我慢汁の混ざり合った
淫猥な匂いが俺たちを包み込む
それが興奮を助長し、絶頂を早めていく。
はぁ
はぁっ
ぐちゅ
ぐちゅ
ずぷっ
じゅぽ
じゅぽ
じゅぽ
ぱちゅん
ぱちゅん
ぱちゅん
じゅぷっ
じゅぷっ
ずぷっ

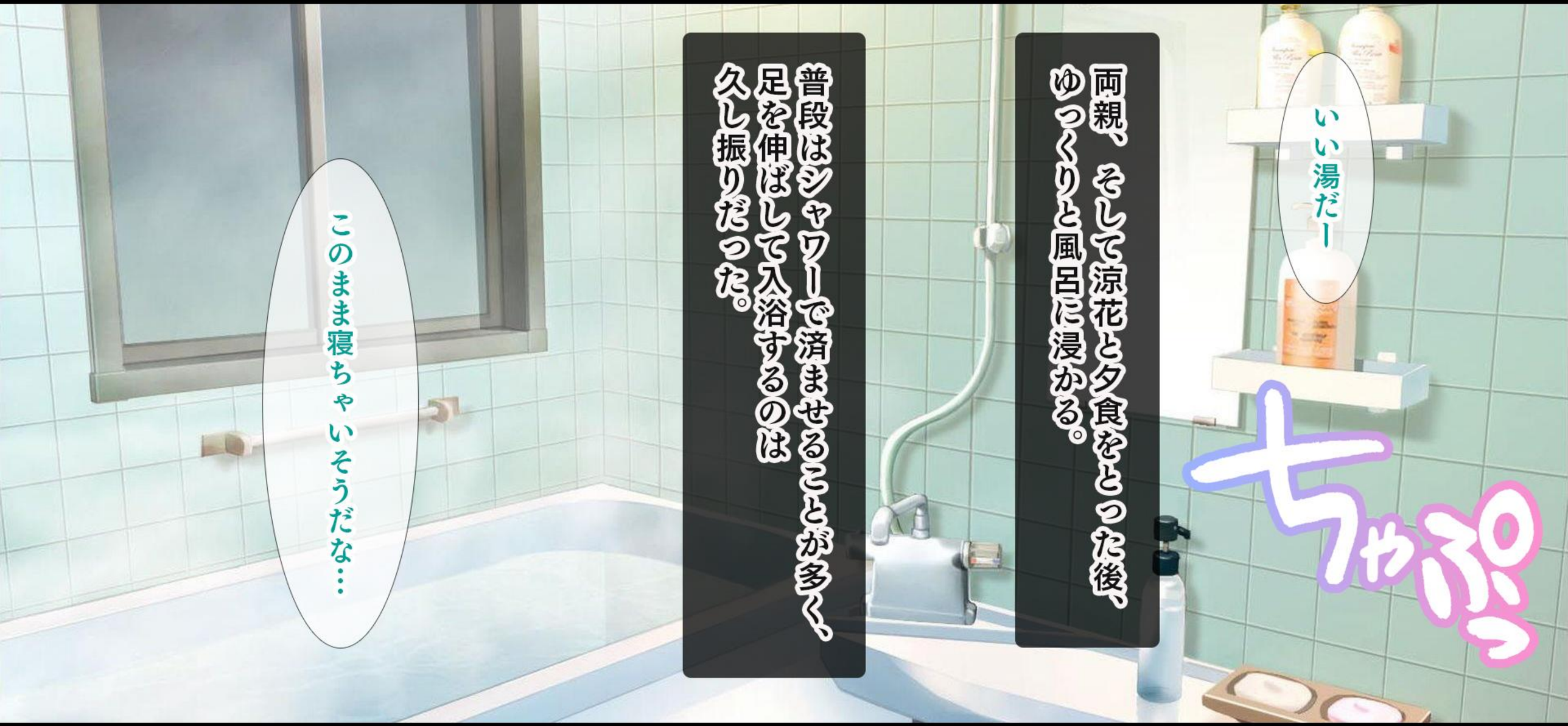
ずちゅ
ずちゅ
叔父さん…
な、何か…くるっ
身体の奥から何か…っ！
はあっ
はあっ
じゅぽ
じゅぽ
じゅぽ
はぁ
はっはっ
す、涼花っ
もう…っ！
ばちゅんっ
ばちゅんっ
じゅぷっ
じゅぷっ
ばちゅんっ
ばちゅんっ

ああんんん♡
ドビュッッッ…

あぁ…♡
すごい…これがイクって…ことなんだね…
こんなの今まで感じたことないよ
ビクッ♥ビクッ♥
あっ♡
ドクドク
はぁ……♡
叔父さんエッチって本当に気持ち良いんだね…

叔父さんも
たくさん射精して…
はぁ
ふふっ
気持ち良かったんだね
はぁ
涼花…
はぁ…
はぁ…

その後、両親が帰ってきたこともあって
俺たちは慌ててセックスの痕跡を消した。
それからは涼花と二人きりになることはなく
セックスをしたことなど嘘のように、
昔のように実家での時間を過ごした。


いい湯だー
両親、そして涼花と夕食をとった後、ゆっくりと風呂に浸かる。
ちゃぷっ
普段はシャワーで済ませることが多く、足を伸ばして入浴するのは久し振りだった。
このまま寝ちゃいそうだな…

全身を包み込む
ほどよい温度に眠気がやってくる。

うつらうつらしていると
ふと涼花とのセックスを思い出す。

涼花とセックスしたんだよな…

姪とするなんて…

でも…気持ち良かったな…

処女だった涼花のマ●コは
これまで体験したことのない
快楽を得ることができた。

うっ
思い出したらまた勃起を…

ムラムラ

治まるまでは
出られないな…

ガチャッ

叔父さん
一緒に入ろー！

えっ

す、涼花っ!?

しーっ！

おじいちゃんとおばあちゃんにバレちゃうから静かに

昔のようにさ一緒に入ろうよー

い、いや…
もう良い年なんだし…
いくら近親者でも
異性に肌を晒すのは
あまり良くないぞ
あはっ
いいじゃん
叔父さんとはさっきエッチして
おっぱいやおま●こ見せてるし
だから一緒に…あっ

そんなに大きくしちゃって…
私の裸で興奮しちゃったんだ
じいっ
いや…その…
別に裸を見て勃起したわけではないが、
先程のセックスを思い出して勃起したので、
はっきりと否定することはできなかった。

おち●ち●
そんなに大きくしちゃってたら
お風呂から出れないよね？
おち●ち●…
小さくなるように
手伝ってあげるよ
にぃ♡
えっ

涼花は手伝うと言うと
俺と向かい合うような形で
浴槽に入ってくるのだった。
ちゅぷっ
この続きは、本編でお楽しみください！！